

明日と拓く

89
号



北海道ブロック

■市立札幌みなみの杜高等支援学校 PTB
【#協育学習部会 #協育実習部会 #社 cafe #協育アドバイザー #現地学習 #地域実習 #地域協働 #南区連携 #実践交流会】
「みなみの杜応援団」の一員として保護者（希望制）が実習参観や研修会開催



東海北陸ブロック

■岐阜県立羽島特別支援学校 PTA
【学校と地域がつながる PTA活動
～地域とつながろう 知ってもらおう～】
ベルマーク・テトラパック回収や勉強会・事業所見学会を地域と連携して開催



東北ブロック

■福島県立あぶくま支援学校 PTA
【本校の PTA 活動について
～みんなで作ろう！絆の架け橋～】
小中高の保護者と教職員が集う「みんなであそぼう夏祭り」や研修・バザー等開催



近畿ブロック

■滋賀県立野洲養護学校 PTA
【子どもを真ん中に置いた PTA活動】
校区ごとの親子フォーラム開催やどんな子でも楽しめる「野洲養護まつり」



令和5年度 全国研究協議大会 分科会発表

各ブロックからの発表と活発な質疑応答の中で双方向のやりとりが生まれ、オンライン開催でありながらも笑顔が行き交う大会となりましたこと、本当に感謝です。各地域の状況や保護者の関心を活かして活動されている実践報告を、ぜひ明日へのヒントにさせていただき来年につなげるきっかけになれば幸いです。

関東甲信越ブロック

■千葉県立習志野特別支援学校 PTA
【子どもたちの命を守る地域に根差した PTA活動】
小学部のみの学校だからこその細やかな安全の見守りや隣接する小学校との連携



九州ブロック

■熊本県立熊本支援学校 PTA
【災害時における安心な場所づくり】
2016年熊本地震後「福祉子ども避難所」設置避難所運営訓練で保護者の実践力向上を目指す



中国四国ブロック

■徳島県立みなと高等学園 PTA
【社会的・職業的自立をめざし、子どもたちと共に学び・支える 11年間の PTA活動】
高等部単独校で保護者の事業所見学会開催や「親 to 子 with みなと」活動、文化祭の協力



東京ブロック

■東京都立王子特別支援学校 PTA
【できることからはじめよう！
～コロナ禍での PTA 活動～】
デジタルツールを活用した PTA活動、児童・生徒が楽しめるオンライン夏祭りの開催





孤独や戸惑いをつながりとおしやべりで客観視する場

全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会会長
東京都立久我山青光学園PTA会長

花澤 雪乃

激甚災害の指定を受けた豪雨に被害を受けた皆さまには、謹んでお見舞いを申し上げます。新型コロナウイルスの発生から3年が経ちました。長引くコロナ禍の中で「新しい生活様式」が主導で進められたことで、生活や働き方のスタイルがさらに多様化しました。学校の先生方も保護者も、そして放課後等デイサービス事業所や相談支援事業所等、知的障害特別支援学校に通う子供たちのまわりにいる大人すべてが、どう過ごすべきなのか、何ができるのか、模索する日々が続きました。今年5月から感染法上の分類が5類に引き下がり、緊急事態宣言もなくなり、イベント観客数の制限も見直され、だいぶ以前に戻ったようにみえます。しかし、特に知的障害のある子供たちにとって、「戻る」というより、「また変わる」という理解となり、なんとか適応しようとはがんばってくれているのではないかと思っています。そんな子供たちを日々育て、関わるすべての方々に、改めて感謝いたします。

さて、学校は何をするところ？と聞かれたら、「勉強するところ」と答えるのが一般的です。しかし、

学校は教科教育のみではなく、学校生活を通して「生きる力」を身につけ、人格形成を行う場であることは、通常学級の子も含め、すべての子どもにとって言えます。「なにかができるようになる」ことだけが目的ではなく、「できた！」と考えることで育つ、学習意欲や豊かな心、健やかな体の育成があるわけです。知的障害や合併症の軽重に関わらず、それぞれが自分のペースで積み重ねたことが、卒後の大きな財産となつて、本人を支えていきます。

大人はどうでしょうか。特別支援学校に通う保護者は、学区が広範囲であるため、ぎくばらんに話す機会が減るともいえます。さらにコロナ禍で、この分断がさらに進んでしまいました。保護者だけでなく、先生方同士の歓送迎会もできず、各特別支援学校で積み重ねてきたプログラムの本質を伝える場が減ったところもあります。PTA活動も試行錯誤しないと行えなかったことは、今年8月に開催した全国研究協議大会の分科会でも各校の発表から伝わってきました。本誌特集記事にまとめた通り、各校の取り組みはさまざまですが、そうした場で、あ

るいはその終わったあとで、なにげなく話す時間こそが、PTAの良さではないかと思っています。ちょっと面倒だけと思いつて、あるいはしぶしぶ、自宅を出て、他の方と関わる、そこに新しい気づきや出会いがあるのではないのでしょうか。「できた!」「そういうことか」が必要なのは、お子さんだけではないはずです。

特に、知的障害のある子と日々関わる保護者は、かわり方への不安、親の働きかけに反応してくれなかつたり予想外の行動だったりすることへの戸惑い、「楽しい」と感じて喜ぶ姿と聞くことを聞かないときの姿とのギャップなど、子どもの「今」の行動に振り回されて、子どもの小さなしぐさや表情に目を向けて関わる心身の余裕がないこともあります。同じ学校の保護者同士と話すことで、またPTA連合会という場で知り合った他の地域の保護者と話すことで、少し客観的に自分のこと、子どものこと、家族のことをとらえる機会ができ、行政や地域とつながろう、サービスを利用しよう、と前向きにとらえるチャンスができるのではないかと思います。答えは見つからなくても、他人に伝えられただけで、違う方向から捉えられたりします。ぜひ、つながる機会として、共に体験し学ぶ機会として、PTAを利用してほしいと願っています。

今年度も、諸団体および関係機関の皆様とも引き続き連携をしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



新しい時代の中での全知P連への期待

全国特別支援学校知的障害教育校長会会長
東京都立水元小合学園 統括校長(本会 相談役)

米谷 一雄

昨年度に引き続き、全国特別支援学校知的障害教育校長会の会長を務めさせていただくことになりました。東京都立水元小合学園校長の米谷一雄と申します。どうぞよろしく願っています。新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが第5類へと移行し、教育活動が段階的に再開し始めました。コロナ禍で培った感染症への対策やオンラインを活用した継続的な学習活動の実施は、今後、間違いなく教訓として生かされ、困難な状況が生まれても、知恵と工夫を凝らし、必ず解決策を導く礎にしていると信じています。

さて、最近「Well-being (ウェルビーイング)」という言葉をよく聞きます。Well-beingは、身体的・精神的・社会的にも良好な状態で、一時的・瞬間的に良好かどうかではなく、持続的に良好であるとしていることを指します。この持続的に良好であるということ、言い換えると、幸せで安定した状態が続くということになります。これは、障害のある人にとっても障害のない人にとっても人生における願いではないかと思います。また、現在、共生社会の実現に向けてのキーワードには、「心のバリアフリー」

という言葉があります。心のバリアフリーとは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです(「ユニバーサルデザイン2020行動計画(2017年2月ユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議決定)」。この二つの言葉には関係性があるように思います。具体的には、心のバリアフリーを広げること、誰もがWell-beingの状態につながるのではないかと言うことです。

例えば、他人とのコミュニケーションが円滑になると、感情や思考を共有でき、他者とのつながりが深まり、結果として、支援や理解を得やすくなります。相互理解が得られれば、誰もが、地域や社会の中で、安心して生活し、力を発揮できる状態の持続に結びつくと思います。まさに、これは、Well-beingの状態です。

新しい時代の中でも、人とのつながりはなくてはならない尊いものだと思っています。そして、そのつながりをつくるために、全知P連の活動が、とても大切に意義をもってきます。今年度、全知P連で、4年振りに開催した第39回全国研究協議大会東海北

陸大会(石川大会)では、分科会の内容が、まさに、つながりをキーワードとして心のバリアフリーを広げるための取組であつたと思います。この取組や活動が継続され、さらに、広がることを期待します。これまでに積み重ねてきたこと、これから、積み重ねていくこと、継続して取り組むことで、地域や社会を変えていける可能性があることを、発信していただきたいと思います。

結びになりますが、子供たちが笑顔あふれる豊かな人生のために、全知P連が今後も益々、充実・発展していくことを祈念し、御挨拶とさせていただきます。



【令和5年度都道府県代表校】

各都道府県の窓口となる学校です
(*印はブロック長 所属校)

北海道ブロック

*市立札幌豊明高等支援学校

東北ブロック

青森県立七戸養護学校
岩手県立花巻清風支援学校
*宮城県立古川支援学校
秋田県立比内支援学校
山形県立上山高等養護学校
福島県立あぶくま支援学校

関東甲信越 ブロック

茨城県立勝田特別支援学校
栃木県立足利中央特別支援学校
群馬県立沼田特別支援学校
埼玉県立特別支援学校
羽生ふじ高等学園
千葉県立習志野特別支援学校
神奈川県立鶴見支援学校
山梨県立わかば支援学校
*新潟県立高田特別支援学校
糸魚川市立ひすいの里総合学校
長野県長野養護学校

東京ブロック

*東京都立小金井特別支援学校

東海北陸 ブロック

富山県立となみ総合支援学校
石川県立小松特別支援学校
福井県立南越特別支援学校
静岡県立浜名特別支援学校
*愛知県立瀬戸つばき特別支援学校
岐阜県立羽島特別支援学校
三重県立特別支援学校
伊賀つばさ学園

【関連団体】

さまざまな関連団体より御指導、御支援を頂戴しています

- ・文部科学省
- ・厚生労働省
- ・こども家庭庁
- ・全国特別支援教育推進連盟
- ・全国特別支援学校長会
- ・独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
- ・全日本特別支援教育研究連盟
- ・全国手をつなぐ育成会連合会
- ・一般社団法人 日本発達障害ネットワーク
- ・一般社団法人 日本自閉症協会

近畿ブロック

滋賀県立三雲養護学校
京都教育大学附属特別支援学校
大阪府立すながわ高等支援学校
兵庫県立いなみ野特別支援学校
*奈良県立二階堂養護学校
奈良県立高等養護学校
和歌山県立きのかわ支援学校

中国四国 ブロック

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校
島根県立出雲養護学校
岡山県立倉敷琴浦高等支援学校
広島県立三原特別支援学校
山口県立田布施総合支援学校
*徳島県立みなと高等学園
香川県立香川中部支援学校
愛媛大学教育学部附属特別支援学校
高知市立高知特別支援学校

九州ブロック

福岡県立築城特別支援学校
佐賀県立うれしの特別支援学校
長崎大学教育学部附属特別支援学校
*熊本県立熊本支援学校
大分県立新生支援学校
宮崎県立日南くろしお支援学校
鹿児島県立武岡台特別支援学校
沖縄県立西崎特別支援学校

佐賀
(7校)

福岡
(24校)

長崎
(16校)

大分
(13校)

熊本
(18校)

宮崎
(9校)

鹿児島
(16校)

沖縄
(11校)

【機関誌】

- ・会報「明日を拓く」(会員全員配付)
- ・「全知P連だより」(各校2部配付)

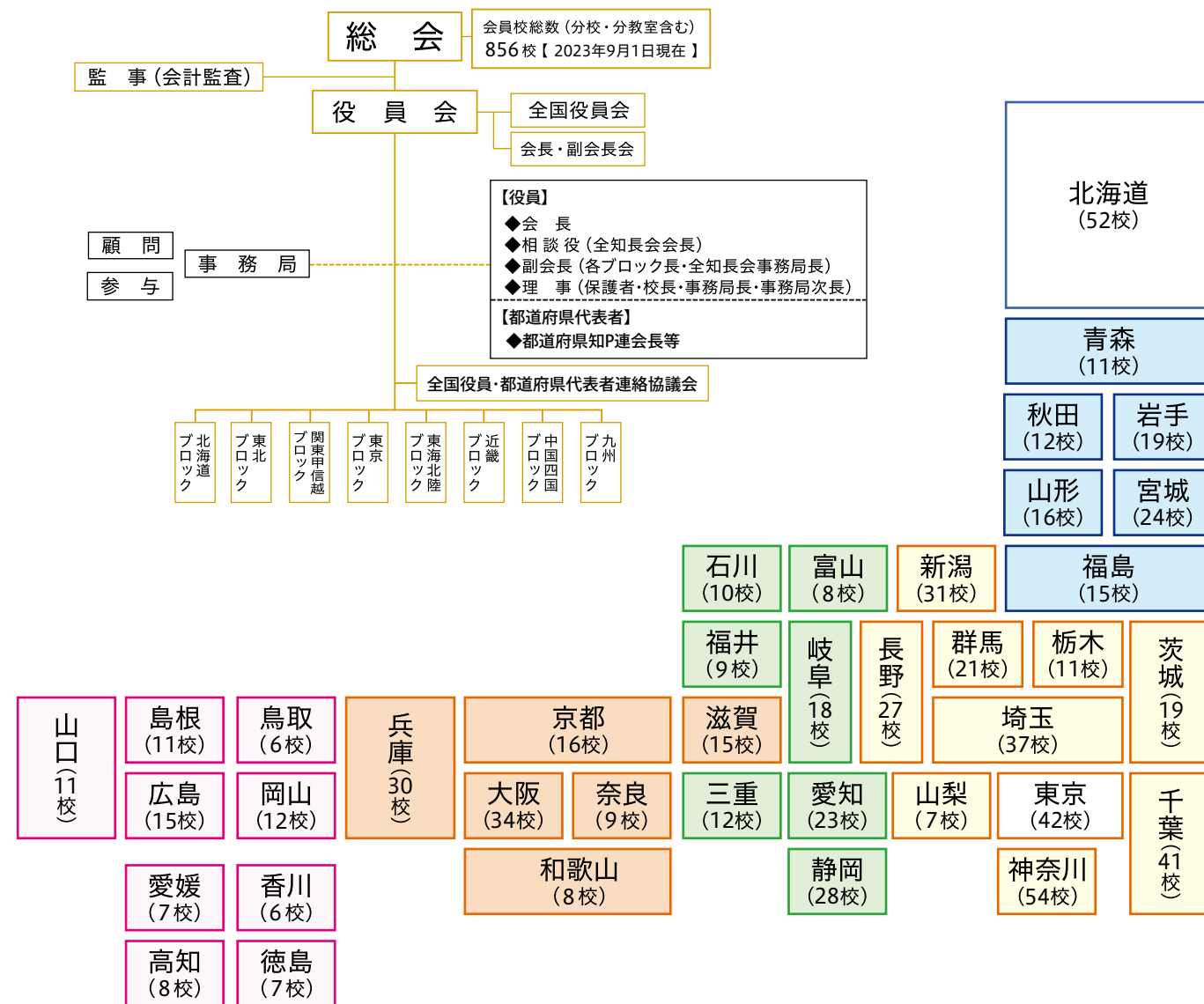
【ホームページ】



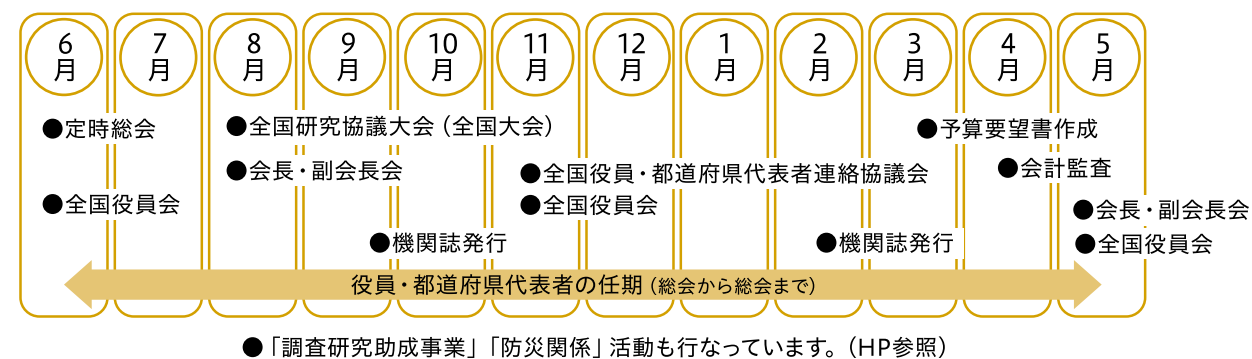
<https://www.zenchipren.jp/index.html>

全知P連組織紹介

【組織図】



【事業スケジュール】



● 会場校:石川県立いしかわ特別支援学校



杉江校長

Q:今のお気持ちをお聞かせください。

杉江:児童生徒の学ぶ意欲や思いに応えるためには、私たち教職員だけでなく、保護者をはじめ地域の方々とつながり連携しながら進めていく必要性を、分科会での発表やご助言、ご講評から改めて感じました。ありがとうございました。



石川県立いしかわ特別支援学校



第2分科会



第3分科会



第4分科会

ごちゃまぜでSocial Inclusion ～社会福祉法人「佛子園」～

地域の住人、老若男女、障害のある人もない人も、それぞれの個性や特性、存在が必要とされる場所がある。これまで福祉がサービスの種類という垣根で人、場所、活動をそれぞれの人の状態によって区切ってきたが、「社会福祉法人 佛子園（ぶっしえん）」は、地域と高齢者、障害者を「ごちゃまぜ」にし、人々がつながる場所を提供し、活動を行っている。

Social（地域）をinclusion（包括）するということは、教育、福祉、医療以外の多くの人々を含んだ活動こそSocialである。

佛子園の施設の一つ、「B's行善寺」は石川県白山市に位置し、施設スタッフは近隣住民を中心とした260名で運営されている。趣のある行善寺を左に見ながら歩くと、蕎麦屋、会議室かと思いきや、会議が終われば卓球場に早変わりのコミュニティスペースがあり、笑い声があちらこちらからあふれている。

足湯、温泉銭湯、カフェ、料理教室、花屋、児童発達支援事業所、保育所、フィットネスジム、クリニック。社会福祉法人の佛子園が「PLVS VLTRA さらに彼方へ」をテーマに攻めの複合型の福祉拠点として地域に息づいている。

同じ空間にいと、向こう側から知的障害のある青年が歩いてくる。近くに支援員がいるのかもしれないが、「ごちゃまぜ」になっているせいか、わからない。

老いも若いも、障害があってもなくても、心地よいごちゃまぜ感が、それぞれの居場所を作り出しているように思えた。

施設訪問レポート 副会長 富永 美和



Q:オンラインの活用やこれからの大会にむけて一言お願いします。

橋高:今までお子さんのことで大会に参加できなかった、という方も、オンラインなら参加できますし、集まっても対面ならではのお話ができます。たくさんの方に参加してもらえそうな形を考え、みんなで元気をもらいながら続いていくといいなと思います。

二木:ICT技術は本当に進んだと思います。オンライン開催に向けて進捗状況と、できることとできないことをひとつずつ確かめながら進めていきました。各分科会には、情報課の職員を加えた体制を組みました。そんな事を重ねて、大会を開くことができる、とわかりました。



第1分科会

● 主幹校:石川県立小松特別支援学校



左から 寺井先生、二木先生、表実行委員長、瀬川校長、橋高教頭、廣瀬先生

Q:大会が終わり、今のお気持ちをお聞かせください。

橋高:実行委員会としては、オンライン型という形式が初めてで、思ったより簡単ではなく、今日終わるまでドキドキしていました。最後に、講評や閉会式で皆様からいいお話が聞けました。PTAとしても共有できたことは、大変有意義なものだったと思います。

二木:無事に開催できてホッとしています。大会が3年間中止していて、今回、参集型かオンライン型かと話し合い、オンラインと決まったのですが、どんな大会ができるのか想像が付きませんでした。最初は雲をつかむようでした。

Q:保護者の皆さんや先生方、配信に関わる方との連携はどうでしたか。

二木:県知P連大会での会合で説明し、各学校PTA担当を通して、PTA会長に情報を伝えてもらいました。進行やアナウンスなど、本当によく練習してくださいました。分科会を担当する学校担当者とは、電話やメールで配信サポート業者の方とはZoomで毎週1時間ほど打ち合わせをしていました。

Q:大会までの準備で一番大変だったことは何ですか。

橋高:実行委員会で考えているやり方が、今までの大会の流れと合っているのか、方向性は間違っていないか、という心配はありました。また、参加される方の方法など、もう少し丁寧な進め方が必要だったか、ということも思います。締め切りが過ぎても、問い合わせがありまして、全国規模で考えれば、件数は少ないかもしれませんが、学校に問い合わせが来る回数としては、大変多かったです。



左から 宮北校長、北田会長

第39回

全国研究協議大会 東海北陸大会
(石川大会)

全国研究協議大会 東海北陸大会は令和5年8月26日石川県にて盛会のうちに終えることができました。事務局で大会終了後、実行委員会の皆様にインタビューさせていただきました。

● 分科会担当校:石川県立錦城特別支援学校

Q:県内の他校とは、情報共有や相談をする機会はありましたか。

北田:昨年度から会長をしておりますので県知P連の集まりなどで以前から他校との交流を重ねてきました。

宮北:今年度、会長が代わられた学校もありましたが、北田会長は継続してくださっていたので準備をしてきた昨年度から、いろいろなお話を聞くことができました。その点では見通しを持ちやすかったと思います。

Q:分科会は1校で1分科会を担当されていましたが校内で大変だったことを1つあげるとしたら何ですか。

宮北:大変だったのは、会長がお仕事もある中、例年より多くの時間を割いてくださったところかと思います。ですので「会長を盛り立て応援していこう」と育友会役員会で話し、手伝える仕事は役員の方々が協力してくださいました。今年度は役員の人数も増やしたのですが、保護者の皆さんが積極的に動いてくださり、すぐに協力体制がとれました。

北田:例年、役員を決めるのは大変なのですが、今年度は皆さんが「いいよ」と快く引受けてくださいました。みんなで協力して今日の日を迎えられたな、と感じています。

Q:オンライン開催という新たな形の全国大会が、ここ石川県で行われたことをどのように感じましたか。

北田:とても光栄で凄いことだと思いました。前に出ることが苦手だった自分が会長の時に石川県で全国大会が行われることになり、初めは戸惑いもありましたが、大人になってからこのような機会に出会える事はなかなかないと思い、楽しむことに決めました。

宮北:校長をしても全国大会規模の大きな会はそうそう経験できないことです。石川県で開催されたことで学校の皆が一丸となって携われたこと、無事に終わったこと、本当に感謝しております。

補助金を活用！

2022 ブロック研修補助費 都道府県補助費

どんな事業してますか

ブ
ロ
ッ
ク

「ブロック研修補助費」は研修会の補助を目的として、また「都道府県補助費」はPTAの健全な発展のための事業、連絡調整ならびに情報提供を目的として、完了報告とあわせて申請いただいています。ぜひ来年度に向けて、補助費を活用して企画するためのきっかけとしていただければ幸いです。（全知P連事務局）

枠内は主な使用費目

Zoomライセンス料
講師謝礼

北海道

各地区オンライン懇談会

「生徒の卒業後の生活や社会参加について ～卒業後の相談から見えるもの～」
「相談支援専門員が見てきた子どもの成長と社会自立」
「豊かな社会生活と生涯学習を実現させるために ～地域・家庭・社会ができること～」
「子どもや家庭の困り感を支える学校及び関係機関のつながりと役割」

東北

講演会

「特色あるPTA活動」～外部資源を活用した新たな可能性～

講師謝礼
資料作成費 会場費



関東甲信越

オンライン講演会

「就労支援の現状から 幼少期からの支援」

講師謝礼

東海北陸

オンライン講演会

「学校を卒業すること」

Zoomライセンス料
講師謝礼

九州

オンライン講演会

「ありのままの姿で自分らしく生きるための心のネットワーク」
～子どもたちの笑顔を地域で共に築く絆づくり～

Zoomライセンス料
講師謝礼 資料作成費

東京

講演会

「年齢に応じた親子の関わり」

講師謝礼
資料作成費



都
道
府
県

（実施事業のうち一部をご紹介します）

岩手

情報交換会

「コロナ禍におけるPTA活動の充実」

交通費
資料作成費

宮城

＜笑顔でつなぐSDGs七夕飾りプロジェクト＞参加

共済費

県内特別支援学校の
子ども達の笑顔を
短冊で集めて
仙台七夕まつりの
七夕飾りを作成



茨城

「つながりを築くPTA活動の実践
～親睦や交流を深めるための工夫～」
「PTA行事精選の経緯及び現状報告」

助言者謝礼
助言者昼食代

「PTA会長から
提案・発表を行い
それに対して
前PTA役員の方などから
助言を頂きました。」

栃木

ハイブリッド講演会

「「私の子育て」～聖母でなくてごめんなさい～」

講師謝礼

埼玉

講演会

「ネット依存・ゲーム障害の実態と支援」

講師謝礼
交通費

神奈川

講演会

「障害の有無や年齢にかかわらず共生するコミュニティ作り」

講師謝礼

長野・石川

PTA連合会の会誌発行

印刷費



福井

講演会

「成年後見制度について」

講師謝礼

静岡

講演会

「みんなのいのちをつなぐ福祉避難所をつくろう！」
～みんなで助かる！福祉×防災×コミュニティ～
「病気や障害のある子どもの「きょうだい」の気持ち」

講師謝礼
資料印刷費

沖縄

講演会

「卒業後の進路、就労について」

講師謝礼
資料作成費

滋賀

講演会

～障がいがある子と“きょうだい”が笑顔で暮らしていけるよう～
「今、私たちができること」「親なきあと」への備えについて

講師謝礼
資料印刷費

人権研修会

「子どもの人権について考える」
～大人が「子どもの人権を尊重し守ることができる存在」となるために～

高知

研修会

「子どもと取り組むSDGs
～気軽にたのしむコツとアイデア」

講師謝礼

佐賀

講演会

「卒業後の暮らしに向けて
～支援度の高い方の進路支援の取り組みから～」
「グループホーム運営者の立場から～保護者へのメッセージ～」

講師謝礼
交通費
資料印刷費
通信費

知的障害児の性親がどう見まもるかー性・SAY・生からー

白梅学園大学

堀江まゆみ

排泄や性を教えるのはハードルが高いですか？でも、自分ひとりでトイレで排泄できれば十分、ではなく、性器をもったり洗ったりふいたりする、清潔にする、かっこよく排泄する、自分を大切に
するスキルは重要です。大人になる変化をスモールステップで伝えていけるのは、特別支援学校在
学中だからこそもいえます。障害のある子ども・人たちの教育や暮らしの支援に長年取り組まれ
ている堀江先生から、1つでも明日へのヒントを受け取ってください。

先生のご許可のもと、令和3年度全知P連ブロック研修費補助事業より再編集してお届けいたします。



性～性の発達と尊厳

保護者の皆さんからいただく質問で子どもが小学4年生ぐらいになると、人前で下半身を出さない、触らないことや、女の子との距離感について、親としてすごく心配だということがあります。下半身を触ってしまうこと自体をやめさせたくて、その都度叱り続けて、それでは解決しないことは分かっているけれども、何を教えたらいいの分からないまま過ぎていくということが多いと思います。でもよく考えてみると、叱るべきことは、人前で触るということなんです。プライベートなのかパブリックなのかを守っていないので、社会的なルールを教えなきゃいけない。性器いじりや自慰行為が悪いわけではないですよ。どうしても私たちは慌てると否定的な行動に出るという習性がありますので、慌てない。この先お子さんが成長するにつれ自慰行為というものと当然付き合っていくますし、さらに大きくなられて恋愛をして、結婚して子どもを生むという人生だって、親が思ってる以上に今は開かれた支援の中にあります。今の性教育は、性器についての説明や赤ちゃんの産道を教えるような狭い意味のものではなく、もっと広い、生きる力をつくっていく、そのための尊厳なんだと考えるところが一番大事になってくる。性を否定するっていうことは、その子のこれからつくっていく歴史自体を否定してしまうってことなんです。だから、その延長線上に

ある自己決定や、自分の人生を選ぶとか、あるいは自分の大好きな趣味をすとか、働くことを選んでいくとか、そういうものの全部の否定につながってしまう。そういう一番最初のきっかけになってくるわけなんです。だからぜひ、親が恥ずかしかったり、困ったりするかもしれないけれども、心の中では、うちの子の発達がここに1つ現れた、たくましく喜んでいただくような扱いとして性を位置付けてほしいなと思います。

思春期になると、障害があっても性の目覚めは必ずやってきます。そんなとき、子ども自身が、性的な関係や他者との適切な関わり方を理解していないと、思わぬトラブルにつながる恐れがあります。プライベートゾーンとパーソナルスペースなど他人の距離の取り方や、人と親しくなる順番の理解を、発達段階に合わせた教え方・内容で学ぶ必要があります。

SAY～意思決定支援

今、国では意思決定支援ということをととても重視していて、厚労省からもガイドラインが出ています。その元になっているのが、「メンタルキャパシティアクト」というイギリスの意思決定能力法です。法律というより支援実践方法や考え方が明示されたガイドラインのようなものです。その中に5原則というのがあるって、その中の3つだけ、豆知識としてお伝えします。

この意思決定支援というものが根底にあって、次の地域でみんなと生きるということにつながっていきます。



意思決定能力存在推定の原則

難しい言葉ですけど、要するにどんな知的障害が重たい子であったとしても、意思決定する能力があるんだということを、私たちは推定、信じ続けることが私たちの責務である。これが原点なんです。どんなに知的障害が重たくても、自分で決めるということは侵害されてはいけない、ということです。

意思決定支援を尽くすエンパワーメント原則

代理や代行ではなく、保護者がうちの子はこっちがいいですと決めるのではなくて、本人が選んで体験したら笑顔が違った。イエスとっている。そのことを大事にしなきゃいけない。だからできるだけいろんな体験をしてもらうことで、この人の意思を私たちは最大引き出すことが責務です。

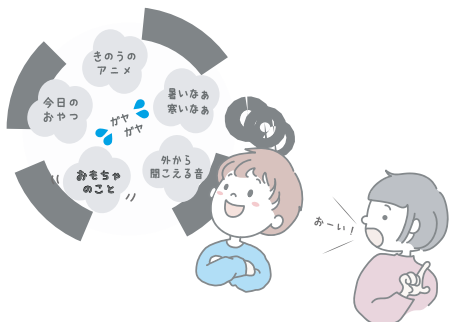
不合理的意思決定が意思決定不存在と判断されない原則

保護者の耳が痛いところだと思いますが、「失敗してもいいんだよ」という原則です。賢明でない意思決定をしたからといって、意思決定能力がないと判断してはならない。時に愚行しても全てが駄目ということではない。性について何か問題があった時に、意思決定支援そのものが失敗することを認めるんだということが、全世界で標準の認識になってきています。これを愚行権というんですけども、これが尊重されているんです。このことを学校の先生にもお伝えしたいです。私たちは大きな失敗とか命が無くなることは、もちろん遮らなければいけないですけども、小さな失敗をしながら、だからこそ上手になっていく。性器出しちゃったら、みんなが変な顔をしているから、やっぱり隠そう。あるいは触りたいと思っていたけど、代わりにふわふわしたものを触ってみよう。周りにとって、え？って思うようなことの失敗をしたからこそ、いい方向があるわけなので、そこを1つ1つ駄目って叱るだけでは、愚行権を侵害しているということになるんです。大きな失敗はしないけど、失敗したら次のいい方法を見つける。これが意思決定で1番大事なところなんです。

生～地域でみんなと生きる

学校卒業した後に、いろんなトラブルに遭うことがあったり、保護者が心配するような性の問題って結構出てきます。いろんな人と関わったりとか、チャンスが多くなるからですよ。卒業した後の学びの場ですが、最近文部科学省がライフサイクルとしての生涯学習の支援を始めました。生涯学習、自分がもっと豊かに生きていくためのライフスキルを学ぶ、あるいは楽しみを見つめる、こういう豊かなのりしろのような生活の時間を保証しなければいけないということが世界中でいわれているので、文科省も力を入れ始めています。全国でそういったモデル事業が始まって、その中の1つが私たちTSネットの事業です。他の生涯学習事業はお楽しみ系の事業ですが、私たちだけが、1回失敗しちゃってトラブルで叱られ続けちゃったけれども、もう1回生き直しをしましょうという「キープセーフ」というとてもユニークな実践をしています。

このキープセーフとはどういうものなのかの前に、レジリエンスについてお伝えします。これは先ほど意思決定支援のところで、子どもには意思決定の能力があるんだと信じ続けることが大事になってくるとお伝えしましたが、レジリエンスとは、心の回復力。トラブルに遭ったとしても、立ち直っていく力が本人たちにはあるんだ、それは知的障害があるなしにかかわらず、みんなある、と信じるのがとても大事。レジリエンスはばっとできるものではなくて、幼少期から少しずつ育っていくんです。レジリエンスが発揮するためにはいくつかの発達の柱が必要であって、その柱がにょきにょきたくましく育ってくると、危機に遭ったときに、自分でトラブルを解決するという、そういう大人になっていきます。



4つのポイントがあります。①新しい情報を楽しむ力②自己を表現する力③他人となじみやすい性格④情緒的サポートをしてくれる人がいる、この4つを周りが支え、本人が発揮する機会があれば心の弾性（＝レジリエンス）が働いてきます。そのためには、人から褒められるとか、人から応援されるとか、認められるとか、そういう周りの人のサポートもとても大事なのです。何度も叱ってわからせる、ではなく、新しい認知・判断スタイルを創ることが、教育の本質なのです。

TSネットの実践を紹介します。「キープセーフ」プログラムは、簡単にいうとお勉強会です。みんなでわいわい楽しくやって褒められた経験が記憶の中に位置付いて、なにかあったときには、そのレジリエンスが発揮する、そういう循環をつくっている学習の場です。

学校でも、グッドウェイモデルといって、グッドは何だろうか、バッドは何だろうかってことを勉強するプログラムをやっています。叱られ続けている生徒は、自分は悪いと思っていることもあります。性に関することでは、たとえば女の子を追いかけちゃった、というときに、それが自分にとってグッドなのか、バッドなのかを考えるチャンスがそれまでなかったの、そういうことをさまざまな教材やプログラムを使ってご本人さんたちに、ずっと胸に落ちるまで、しっかりと伝えていく。

このプログラムを行う上でのポイントは、まず第1はレジリエンスなんです。自分を語る。言葉をつなぐ。叱れば叱るほど、本人は自分をしゃべらなくなります。話すとか叱られるから、話さないほうが楽というふうになる。これは実感です。だからセッションの中では、最初はたくさんしゃべってことを目標にして、しゃべると褒められるということをいっぱい経験してもらいます。第2には、お子さんたちに時間的展望を持ってもらいたいんですね。叱るってことはその瞬間を叱ってるだけなので、展望をシャットダウンしちゃうんですよ。今これをやったら次はどうなるのかっていうことを、考える前に駄目だよって言って終わりにしちゃうので、自分はどのような選択をすればいいかって考えるチャンスをもぎ取っちゃうんですね。時間的展望が弱いと、今の衝動で女の子に触っちゃう。でも

今、国では意思決定支援ということをととても重視しています。大きな失敗はしないけど、失敗したら次のいい方法を見つける。これが意思決定で1番大事なところなんです。

自分は1年後、2年後、どういう自分になっていたいかってという時間的展望がとれる子は、そこで我慢をするっていうコントロールが効くんなんです。

最終的にはグッドライフ、健康な人生を送っていくこと、そのために人生を豊かに生きてくための知恵、方法を本人に教えていくのが今時の性教育なんです。そしてそれはどうやって地域でたくましく生きていくかというライフスキルを身につけていくことにつながっていく大事な教育なんだと思っています。



特別支援学校

知的障害教育校総合補償制度

(こども総合保険)

つてなあに?

知的障害教育総合補償制度については、特別支援学校(知的障害教育校)で、約3人に1人がご加入いただいております。大切なお子さまを1日24時間補償する制度でございます。学校でのおケガはもちろん、学校が休みの日や登下校中のおケガも補償いたします。例えば、通学中に転んでおケガをした際やパニックを起こして他人におケガをさせてしまった場合、また友だちのメガネをつかんで壊してしまった際などの補償がございます。また昨年度からは新型コロナウイルス感染症で入院された場合の補償を新プランとして、ご提供させていただきます。

*詳細につきましては、近隣の取扱代理店にご連絡の上、パンフレットのご確認をお願い致します。

年度実績(御報告)

知的障害教育総合補償制度のご加入者を対象とした2022年度(令和4年4月～令和5年3月)に保険金が支払われた事故につき全体の傾向と事例をご案内いたします。

今回の集計結果では、5,752件の事故に対して補償制度からお支払いされています。

全体の事故件数は増加しており、1件あたりのお支払の保険金については引き続き高額化した状態が続いている点が特徴でございます。

生徒本人の傷害事故が1,855件、第三者への賠償事故が1,985件となっており、前年度に比べ傷害事故は717件増加、賠償事故が30件減少しております。死亡事故や後遺障害の認定

による重症事故は8件発生しております。

また皆様から加入時のお問合せの多い自転車に関連する事故については、本人の傷害事故44件、賠償事故9件となります。今回お支払いが多かった新型コロナウイルス感染症でのお支払いとなり、1,881件となります。

第三者への賠償事故については例年通り「メガネ」「ガラス」を破損、「自動車」への損害、「パソコン」「タブレット」「携帯電話」等のIT機器の事故が多くを占めており、そのうち5万円未満の賠償事故が1,392件と全体の約7割強を占めております。

一方で保険金が10万円を超える事例は279件発生と昨年より増加傾向が続いており、さらに100万円を超える高額事例も3件発生しております。

傷害事故例

- ①歩行中に転倒し、入院を要した。
(補償金 約10万円)
- ②サッカーをしている最中に転倒し、通院を要した。
(補償金 約5万円)



賠償事故例

- ①駐車場に止まっている送迎バスの窓ガラスを破損させた。
(補償金 約14万円)
- ②通っている施設の窓ガラスを破損してしまった。
(補償金 約11万円)

傷害事故例(20万円以上)

- ①運動中に負傷した。
(補償金 約25万円)
- ②走行中の軽トラックに接触し負傷した。
(補償金 約20万円)



賠償事故例(20万円以上)

- ①駐車中の他人の車を破損させてしまった。
(補償金 約79万円)
- ②家電量販店の店頭の商品を破損させてしまった。
(補償金 約111万円)

以上の通りでございます。今年の総括としましては、全体的な事故の発生件数は昨年より大幅に増加し、支払総額は約2億5875万円となっております。1件1件の事故は高額化した状態が続いております。新型コロナウイルス感染症により制限された生活から日常生活が戻りつつある中、事故件数に関しては特に学校内や施設内でのおケガの事故が増加しております。いつ何時自分自身が加害者または被害者になってしまう可能性は十分にございます。

知的障害教育校総合補償制度は、生徒様のお体の補償はもとより第三者への賠償事故という観点からもご加入をお奨めいたします。



<https://www.zenchipren.jp/activity/insurance.html>

編集後記

最近、伝えるということがいかに難しいかを痛感しています。文書を作成する際も簡潔に書く方がよいとき、説明や流れを伝えながら書く方がよいとき、どちらも伝えたい相手のことを想像し思いを寄せているのに、迷ってしまうことがあります。

文字だけでなく言葉もまた同様で、相手に言葉を選んで伝える大切さを、今一度考えてみたいと思います。

【編集・発行】 全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会事務局
〒105-0012 東京都港区芝大門1-5-3 ヤマシタ芝大門ビル5階
TEL 03-3433-7651 FAX 03-3433-7652
【印刷】 株式会社エムシーアシスト

E-mail: info@zenchipren.jp
<https://www.zenchipren.jp/>